

当事者のニーズ、自治体・特別支援学校等の取組に係るヒアリング ー主なポイントー

1. 大河内直之 東京大学先端科学技術研究センター特任研究員

- ・視覚障害者・盲ろう者のニーズ・課題

＜特に議論いただきたいポイント＞

- ・視覚障害者・盲ろう者のニーズ・課題を踏まえ、学校卒業後における学びの推進のために求められる方策

2. 西宮市教育委員会

- ・公民館等における知的障害、視覚障害、聴覚・言語障害関係の講座、手話講座、ボランティア養成講座等

＜特に議論いただきたいポイント＞

- ・公民館の強みを生かした効果的な学習プログラム・実施体制、人材の育成・確保等の在り方

3. 東京都教育委員会

- ・特別支援学校公開講座（本人講座・ボランティア養成講座）、施設開放事業（都立学校活用促進モデル事業等を含む）、放課後子供教室等

※補足説明

- ・朝日滋也委員：特別支援学校長から見た現場の状況等
- ・箕輪優子委員：企業・地域から見た現場の状況等

＜特に議論いただきたいポイント＞

- ・特別支援学校（ノウハウ、施設設備等）や同窓会・企業・地域の強みを生かした効果的な学習プログラム・実施体制、人材の育成・確保等の在り方

4. 菅野敦委員

- ・オープンカレッジ東京におけるプログラムの体系化の取組
- ・ライフステージ別の支援課題、支援内容の枠組み、支援システムの構築

＜特に議論いただきたいポイント＞

- ・大学（オープンカレッジ・公開講座等）の強みを生かした効果的な学習プログラム・実施体制、人材の育成・確保等の在り方
- ・生涯の各ライフステージにおいて必要な汎用性のある学習プログラムや支援システムの在り方

学校卒業後における障害者の学びの推進方策に関する検討イメージ

(1) 障害者に真に求められる学習プログラム・実施体制等

【視点1】学校から社会への移行期に特に必要となる学習の在り方

- ・学校段階までの過程で身に付けた資質・能力を更に維持・開発するための学習の在り方
- ・多様な生活体験、職業体験等を体系的に行う中で、主体性をもって物事に取り組みやり遂げる力、コミュニケーション能力や社会性などを伸ばし、その後就業し自立した生活を送る基礎力を身に付けるための学習の在り方

【視点2】生涯の各ライフステージにおいて必要となる学習の在り方

- ・生涯の各ライフステージで必要となる、社会生活を自立して生きるために必要な知識やスキル等を身に付け、実生活で実践するための学習の在り方

<内容>

- ①プログラムの内容 ※参考資料2を参照。
* 障害のない者との交流・共同学習、当事者の自主的活動を含む。

②実施体制等

- 多様な主体の強みを生かした効果的な実施体制の在り方

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・公民館、生涯学習センター等の社会教育施設 ・特別支援学校の同窓会組織等 ・大学（オープンカレッジや公開講座等） ・企業、社会福祉法人、NPO法人 ・実行委員会・コンソーシアム等 | ↔ | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校等との接続・連携 ・生涯学習、文化、スポーツ、福祉、労働等の関係機関・団体等との効果的な連携 |
|---|---|--|

* 福祉・労働等の事業の活用を含む。

- 特別支援教育や障害者福祉等の専門的知見を有するコーディネーター・指導者の配置、ボランティアの参画方策等

(2) 一般的な学習活動への障害者の参加の推進方策

- 一般的な学習活動への障害者の参加に係る促進要因・阻害要因を踏まえた効果的な対応策
- 障害者差別解消法を踏まえた「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮」の対応（考え方、求められる体制等）

(3) 人材の育成・確保、普及啓発

- ①人材の育成・確保
 - 指導者・コーディネーターの資質向上・確保
 - ボランティアの養成・確保
- ②普及啓発
 - ノウハウの提供・共有
 - 障害のあるなしに関わらず共に学ぶ取組の普及

(4) 推進体制の整備等

- ①関係者に求められる役割
- ②必要な体制づくり
- ③必要な方策
 - 当事者のニーズの把握、相談の対応
 - 域内の取組の情報収集・提供
 - 実施体制等の整備

☆求められる学習内容は何か
☆どのような体制で実施すべきか

☆基盤の整備のためには何が必要か

☆一般的な学習機会への障害者の参加を促進するためには何が必要か

○障害者に真に求められる学習機会の全国的な整備推進

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など